

# 第1号議案 2015年度事業報告書

## 一 事務局

会員数 2016年3月31日 現在 628名

(2015年3月31日 618名 10名増)

※2016年4月25日現在会員数641名

総会 5月16日(土) 中村 秀一氏記念講演

社会福祉士全国統一模擬試験 10月5日(日) 実施

ケアマネジャー受験対策講座 7月13日、8月23日、9月19日実施 8名受講

実習指導者講習会 9月20日～21日実施 23名修了

みえソーシャルワーカーデー記念事業 7月20日(月)、海の日) 実施70名参加

## 二 各委員会事業報告

### 1 地域生活定着支援センター

#### I 地域生活定着支援センターで行った業務

(ア) 高齢や障がいがあって、福祉の支援が必要な矯正施設(刑務所や少年院)入所者について、福祉の支援を行って出所後の生活が安定して営めるように支援する(コーディネート業務)。

(イ) 出所した方が社会で安定して生活を営めるように出所後も支援する(フォローアップ業務)

(ウ) 罪を犯した高齢や障がいのある方の福祉支援に関する相談を受けることがある(相談業務)

(例示)

判断能力に問題があるが出所後福祉の支援が必要と思われる方

矯正施設に収容されなかった方で、高齢や障がいのために福祉の支援が必要な方

矯正施設を出所した高齢や障がいのある方で、当センターの支援が必要と思われる方

(エ) 啓発事業

#### II 2015年度実績

(支援事業)

- 帰住先等の調整をして矯正施設を出所した件数…23件(矯正施設からの直接依頼含)  
高齢及び障がい別内訳 高齢者 16件 障がい者 7件
- 相談事例の内不起訴等で釈放された方で行き場のない方への支援 3件

(主な帰住先)

救護施設、障害者グループホーム、更生保護施設、自立準備ホーム、サービス付高齢者住宅、ケアハウス、自立援助ホーム、病院、アパート、自宅

- フォローアップした件数

35件（高齢20件、障がい20件）  
（フォローアップした方の居住形態）

障がい者グループホーム…	7件	アパート	…	9件	
救護施設	…	12件	サ高住・ケアハウス	…	4件
自立援助ホーム	…	1件	自立準備ホーム	…	1件

コーディネートは昨年度とほぼ同じ件数だった。高齢者の数が2015年度は高い。支援数は全体として増えている。主にはフォローアップの件数の増加による。一旦は福祉施設等に帰住しても、そちらでは落ち着かなかったり、そもそも落ち着くのに相当の支援が必要である事例も多い。また、高齢者の事例では、出所後急に認知症が進んだり、病状が悪化する事例も少なくない。

（啓発事業）

福祉施設等における研修での講演、その他県等が実施する研修会での講演等を行う。また、啓発誌「つながり」を1回発行。

### Ⅲ 成果と課題

#### 成果

●2015年度は1事例を除いて地域や福祉施設などに帰住できた。

1事例は当センターの支援を断った。束縛されると考え、ホームレスの生活を選択した。その他はすべて住居や福祉施設に帰住できた。当センター等による支援がなければ、ほとんどの人は路上生活に陥るか、家に帰っても再度生活破たんをきたしたであろうと思われる。

●満期出所者の再犯率を下げた。

これまでに地域に帰住した方で再犯に至った件数は本年度で1件だった。これまでに支援し県内に居住した約80人のうちでも再犯して矯正施設に戻った例は5件、そのうち4件は再出所後の支援で安定した生活に至っている。一般に満期での出所者の再犯率が6割と言われていることからみて、生活安定のための取り組みが犯罪を減らしていると言える。

●フォローアップ事業の実施の効果が大きかった。

フォローアップの結果、出所後も支援を受けて、より当人に合った生活を確認できた例が多かった。2015年度に出所し、当初は施設に入所した方の中で4人はアパート生活に移行した。一方、障がいの重度化などにより施設変更を余儀なくされる例もある。支援対象者の状況の変化に対応する必要性が大きく、それにより生活安定が進んだ。

●刑務所に行く前の支援ができて、生活破綻を防ぐことができた。

矯正施設にいて高齢や障がいがあっても、特別調整等、保護観察所からの支援依頼から漏れる方もいる。こうした方への支援も矯正施設からの直接依頼を受けて、できるだけ支援から漏れる方のないようにすることができた。また、不起訴等で釈放されたが帰るところのない高齢や障がいの方への支援も行った。こうした方への支援は、準備期間もなく、対象となる方の理解もできないまま支援を進めると言う困難があり、その解決は今後の課題である。

## 課題

- 多くの事例が、住所を失っている方であるので、援助の実施者の問題についてはまだ問題が残っている。やはり、多くの支援が必要な方が多いので、受け入れる行政や福祉機関は消極的になりがちで、支援の実施に困難が多い。当センターが支援する方の多くは、広域にわたって移動しており、地域的なつながりのない方が多い。ところが、福祉は市町村単位で実施されるので、こうした方たちは福祉から省かれがちになる。こうした実情にそった福祉支援の実施ルールが築かれたらよいと考える。
- 長く通常の地域生活を営んでこられなかった方たちなので、安定した生活の確立には多くの支援が必要であるが、その支援の方法が見つからなかったり、本人が支援を必要とする自覚がないため、安定した生活を築けなかったり、一旦築けても失うことになったりする例もある。支援の力量を向上させ、支援ネットワークの形成に努める必要がある。
- 年々支援必要件数が多くかつ多様になってきている。また、福祉以上に医療的な対応を要する事例もあり、帰住先の確保に一層苦慮するようになった。
- 安定した生活を営む上での課題克服が大変である方や、再犯リスクの高い方もいるため、支援の力量向上と支援ネットワークの形成に一層努めなければならない。
- 県内でも遠隔地に帰住する場合のフォローアップに苦労している。各地域連携を進める必要がある。

啓発事業では、2014年度には講演会を実施できたが、今年度は日常業務に追われて企画ができなかった。今後、毎年とはいかなくても、関係機関と協力の上で適時講演会を実施する必要がある。また、啓発誌の発行については今後とも続けたい。

## 2 ぱあとなあみえ

### ◇ 2015年度の実績

- 1、家裁からの依頼件数、2013年度→45件 2014年度→57件 2015年度→58件（内、受任46件）
- 2、名簿登録者は微増。2015年度→111名 受任者数は増加 2014年度→80名 2015年度→86名
- 3、受任累計件数（活動中のもの）は増加。2014年度→213件 2015年度→243件
- 4、権利擁護及び成年後見制度に関する委員や講師への派遣依頼の増加してきた。
- 5、2015年度地域医療介護総合確保基金に係る事業を実施。（延べ7日）
- 6、名簿登録更新の条件として各研修会等への1回以上の参加を促進。

事業名	日時	会場	参加者数等
ぱあとなあみえ運営委員会	第2土曜日(毎月開催)	社会福祉会館	運営委員 20名
成年後見継続研修	6月13日 13:30~16:30	社会福祉会館	51名
	2月20日 13:30~16:00	社会福祉会館	33名
成年後見人養成研修	8月 9日 10:00~17:30	社会福祉会館	受講者
	9月 6日 10:00~17:30	〃	25名

	10月 4日 10:00~17:30 11月 1日 10:00~17:30 12月 6日 10:00~17:30	// // //	
成年後見事例検討会	7月20日 13:00~17:00 9月19日 10:00~12:00 10月31日 10:00~12:00 11月6日 19:00~21:00 1月9日 10:00~12:00 2月13日 10:00~12:00	津リージョンプラザ 上野ふれあいプラザ 尾鷲市福祉保健センタ — 松阪市市民活動センタ — 四日市市総合会館 伊勢市福祉健康センタ —	10名 8名 14名 30名 19名 22名
活動報告チェック委員会	9月12日 13:00~16:00 3月12日 13:00~16:00	社会福祉会館 //	運営委員 運営委員
成年後見基本実務研修	12月26日 9:30~16:00	社会福祉会館	50名
後見申立支援研修 (2015年度基金事業)	11月25日 10:00~16:00 12月16日 10:00~16:00	四日市市文化会館 伊勢市観光文化会館	51名 53名
市民後見人基本実務研修 (2015年度基金事業)	1月31日 10:00~16:00 2月28日 10:00~16:00 3月19日 10:00~16:00	社会福祉会館 // //	28名 31名 27名
親族後見人支援研修 (2015年度基金事業)	3月3日 10:00~16:00 3月17日 10:00~16:00	社会福祉会館 //	80名 87名

東海4県ブロック会議 愛知と打合せ 12/16(16:00~)、2/21(13:00~17:00)

◇ 成年後見人等の受任状況

(1) 家裁からの依頼件数年間58件、(回答内訳、推薦46件、推薦不能4件)

報告年月	養成 研修 受講 済者	名簿 登録 者数	受任 者数	法定 後見	内訳			任意 後見	内 訳 任意 後見 契約 のみ	受任 件数
					後見	保佐	補助			
2010年2月	121	62	35	84	58	21	5	3	3	87
2010年8月	121	66	42	91	63	23	5	2	2	93
2011年2月	147	72	43	96	68	23	5	2	2	98
2011年8月	147	81	53	118	88	25	5	2	2	120
2012年2月	168	85	59	134	99	28	7	2	2	136
2012年8月	168	92	64	146	107	30	9	2	2	148
2013年2月	194	96	65	160	116	32	12	2	2	162
2013年8月	194	104	72	182	—	—	—	2	2	184

2014年2月	209	106	77	189	136	39	14	2	2	191
2014年8月	209	105	80	197	142	43	12	2	2	199
2015年2月	223	107	80	211	152	45	14	2	2	213
2015年8月	223	111	79	226	167	46	14	2	2	228
2016年2月	247	111	86	235	174	48	15	2	2	237

### 3 研修委員会

#### ◇ 2015年度の実績

事業名	日 時	会 場	参加者数等
基礎研修Ⅰ集合1 中間課題 基礎研修Ⅰ集合2	7月26日 10:00~17:00 8月23日 13:00~15:00 11月29日 10:00~17:00	高茶屋市民活動センター 高茶屋市民活動センター 三重県福祉会館	45名修了

事業名	日 時	会 場	参加者数等
基礎研修Ⅱ	5月10日・5月31日 6月21日・7月12日 7月26日・8月9日 8月23日・9月6日 9月27日・10月4日 11月29日	高茶屋市民活動センター	11名修了

事業名	日 時	会 場	参加者数等
基礎研修Ⅲ	5月10日・6月14日 7月12日・9月6日 9月27日・10月18日 11月8日・12月20日 1月31日・2月21日 3月13日	高茶屋市民活動センター	6人修了

事業名	日 時	会 場	参加者数等
定例会	4月13日・5月11日 6月8日・7月6日 8月10日・9月14日 10月13日・11月9日 12月14日・1月12日 2月8日・3月14日	松阪市民活動センター	委員数 15名

## 4 高齢者・障がい者虐待防止委員会

### ◇ 2015年度 事業経過報告

高齢者・障がい者虐待防止チームは、三重弁護士会高齢者障害者権利擁護委員会とタイアップして、市町との契約により高齢者虐待防止法および障害者虐待防止法の解釈、高齢者・障がい者の虐待に関する情報や一般的な事項に関する情報提供や助言を行う体制づくりに取り組んだ。

7月25日には三重県高齢者・障がい者虐待防止チーム設立総会を開催し、三重弁護士会と三重県社会福祉士会の合同の民間団体として新たなスタートを切った。総会以降、弁護士と社会福祉士がペアを組み県内の市町にPRと契約促進のため訪問活動を行った。

また、県内の市町で発生した虐待案件に対する弁護士・社会福祉士の派遣、高齢者虐待担当交流会を松阪会場と四日市会場の2か所で開催などの活動を行った。石井委員長が体調不良により活動に影響があった。

(定例会)

4月25日、5月30日、7月25日(設立総会)、11月21日、1月23日

## 5 障がい者福祉委員会

### ◇ 2015年度の実績

- ① 委員会を立ちあげて、2年目であった。
- ② 3回の企画(研修会)をたちあげて、会員の参加を促進した。
- ③ 結果は1回のみで開催になった。
- ④ 出来れば多くの会員を結集し、ボトムアップで企画化をしたかった。
- ⑤ 他の委員会等との連携を強化する必要がある。

事業名	日 時	会 場	参加者数 等
「対人援助について学ぶ」 講師：貴島日出見 氏	2015年8月2日(日) 10:00~16:00	三重県社会福祉会館	25
「サービス等利用計画」 講師：日本相談支援専門員 協会	2015年11月7日(土) 10:00~16:00	三重県社会福祉会館 三重県社会福祉会館	中止
「強度行動障害について」 講師：井村 裕 氏	2016年1月29日(金) 13:30~16:30		他研修に 振替

## 6 地域包括支援センター委員会

### ◇ 2015年度の実績

三重県健康福祉部長寿介護課からの受託事業として、三重県地域権利擁護支援事業研修を開催した。特に2016年1月に開催した高齢者虐待防止基礎研修では、東邦大学教授の岸恵美子氏を講師にお招きし、セルフネグレクトに関する講義とし、受講者から好評を得ました。また、日本社会福祉士会が開発した高齢者虐待対応現任者標準研修を県からの受託事業として開催していることで、県内で高齢者虐待対応に携わる市町及び地域包括支援センター等の職員に広く周知できた。

事業名	日 時	会 場	参加者数等
○委員会	毎月1回開催 19時30分～21時	アスト津	
○三重県地域権利擁護支援事業研修			
・市町管理職・担当職員研修	2015年5月14日(○) 13時30分～16時	三重県吉田山会館	57名
・専門研修(高齢者虐待対応現任者標準研修)	2015年9月3日(木)・9月17日(木)・10月5日(月)	三重県合同ビル	1日目36名 2日目36名 3日目36名
・高齢者虐待対応担当者交流会(松阪会場)	9時30分～16時50分	三重県松阪庁舎	27名
・高齢者虐待対応担当者交流会(四日市会場)	2015年10月15日(木) 14時～16時	三重県四日市庁舎	15名
・高齢者虐待防止基礎研修	2015年10月22日(木) 14時～16時	三重県庁講堂	174名
	2016年1月18日(木) 13時～16時40分		

## 7 独立型社会福祉士支援委員会

### ◇ 2015年度の実績

- 1 独立型社会福祉士支援委員会として組織体制を確立するための活動として、委員会並びに交流会を開催した。
- 2 独立型社会福祉士実践報告会を開催し、独立型社会福祉士各々の活動を支援するため、意見交換や情報交換を行い、会員相互のネットワークを深めた。
- 3 他県士会の独立型社会福祉士支援委員会との情報交換や交流活動を行った。

事業名	日 時	会 場	参加者数等
(運営委員会)			
第1回 委員会	2015年7月11日(土)	アスト津3階 交流スペース	10名
第2回 委員会	2015年11月14日(土)	三重県社会福祉士会 事務局	4名
第3回 委員会	2016年3月12日(土)	三重県社会福祉会館 2階 大会議室	13名
(行事、研修会等)			
第4回独立型社会福祉士実践報告会&交流会	2015年7月11日(土)	アスト津3階 交流スペース	10名
第12回独立型社会福祉士全国実践研究集会	2016年1月30日(土) ～ 2016年1月31日(日)	東京学芸大学  三重県社会福祉会館 2階 大会議室	2名 (三重県会員)
第5回独立型社会福祉士実践報告会&交流会	2015年3月12日(土)	三重県社会福祉会館 2階 大会議室	13名

## 8 医療福祉連携委員会

### ◇ 2015年度の実績

事業名	日 時	会 場	参加者数等
ソーシャルワーカーの楽しさをつなぐ	7月20日(日) 13:30~16:30	アスト津	55名 (アンケート37名回収)

新人ソーシャルワーカーの体験発表、グループセッション、その後、全体報告会を実施  
朝日新聞に掲載したこともあり、一般の方や学生の方の当日参加がみられた。

会場がアスト津だったこともあり、受付で混雑しました。

託児を実施(小学校2人、保育園児1人)し、参加者からの評価は上々でした。



次年度の課題は、個別相談会等のブースを作るなどの検討もしていきたい。

事業名	日 時	会 場	参加者数等
高齢者の終の棲家を考える～三重県内の実態と医療の機能分化～	3月27日(日) 13:00～16:00	三重県社会福祉会館3F	34名 (アンケート21名回収)

高齢者の終の棲家を考えるというテーマで、無届け介護ハウスを中心にシンポジウムを実施。基調講演を皇学館大学山路教授から、問われるソーシャルワーカーの立ち位置についてシンポジウムでは、送り手側(MSW)、受け手側(施設管理者)、そして地域視点(生活支援コーディネーター)の立場から、3名のパネラーに現状と課題について話しをしてもらった。その後、フロアーを交えてディスカッションを実施した。

## 9 ケアマネジメント委員会

- 今年度もケアマネジメント委員会が独自で企画、運営する「ケアマネジャーのための実践力基礎講座」の開催を中心に、委員会活動を行った。
- 会員外の参加者が増え、ケアマネジャーの資質向上を図ることが出来ただけでなく、この講座をきっかけに参加者の中から、介護支援専門員の実務経験を生かして社会福祉士資格の取得を目指す方が出てきていることは、この委員会の本来の目標を達することができた、と言える。
- ケアマネジメント委員会は、来年度から「医療福祉連携委員会」に統合する。

事業名	月日	講義内容	講 師	会 場	参加者数等
ケアマネジャーのための実践力向上基礎講座2015 (全8回講座)	7/12	社会福祉概論	福田 雅文 氏	三重県社会福祉会館	延べ受講者数140名 会員14名 非会員44名 実人数58名
	8/22	障がい者の福祉について	関口 広樹 氏		
	9/19	相談援助概論 《コミュニケーション》	加藤 利枝 氏		
	10/10	災害時の現場について 「平成23年9月紀伊半島大水害：被災当事者からの提言」	塩津 大介 氏		
	11/15	生活保護制度 「自立支援としての生活保護」	藤井由紀子 氏		
12/20	地域福祉論 「無縁社会にならないために」	蒔田勝義 氏			

	1/11	医療連携について ① 訪問看護	中道尚美 氏		
	2/7	医療連携について ② 医療機関	山浦康孝 氏		

## 10 こども家庭委員会

### ◇ 2015年度の活動報告

- ・ 11月の児童虐待防止推進月間に、大阪二児遺体遺棄事件を題材とした映画「子宮に沈める」の上映会と参加者の意見交換会を開催し、会員のみならず、多くの児童福祉関係に参加して頂く事ができた。特に意見交換会を開催したことで、互いの連携を深めるとともに、社会福祉士が児童分野で活動していることを、外部関係機関に周知することができた。
- ・ 今年度の定例委員会の活動は、上記の準備等が中心となってしまい、研修会の開催や児童教育部会の立ち上げに至らなかった。
- ・ スクールソーシャルワーカーとして勤務している会員が自主的に開催していた「スクールソーシャルワーク研究会」を子ども家庭委員会の専門組織として組み入れ、教育分野との連携強化を図った。

事業名	開催日時・会場	参加者他
児童虐待防止推進月間協賛 「子宮に沈める」 上映会&意見交換会	2015年11月 三重県社会福祉会館3階講堂	会員 17名 会員外 8名 計 25名
定例委員会	年間7回開催・アスト津他 (4、5、8、12月休会)	毎回4～7名出席
スクールソーシャルワーク研究会	年間10回開催 四日市市なや市民プラザ	毎回3～6名出席 ※SSW現任者
ソーシャルワーカーデー における託児の担当	2015年7月20日 アスト津3階	利用児童 3名 託児スタッフ 3名

## 11 特定相談支援事業所

### ◇ 2015年度事業報告

事業報告対象期間（2015年4月1日～2016年3月31日）

1. 事業報告対象期間の利用者は2名で、いずれも定着支援センターからの依頼ケースである。

下記「計画相談実績」表のとおり、計画作成とモニタリングの業務結果である。

2. 外部からの紹介問い合わせが数件あったが、人員・スタッフの動ける配置の関係上お断りせざるをえなかった。特に未成年者、児童の問い合わせが多かったが、今後は取り組むことを検討している。

<計画相談実績>

	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3	
請求	3月分	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	
新規①									16,689			16,686	33,378
新規件数②									1			1	2
更新③							16,689		16,493				33,182
更新件数④							1		1				2
モニタリング⑤		13,571	13,571	13,571	13,571	13,571		13,571		27,142	13,571		122,139
モ件数⑥		1	1	1	1	1		1	1	2	1		10
⑦=②+④ +⑥		1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	1	14
⑧=①+③+ ⑤	0	13,571	13,571	13,571	13,571	13,571	16,689	13,571	33,182	27,142	13,571	16,689	188,699